



No.39 2013. 11

news

BIZ 島田節子

400-0032 甲府市中央2-9-12

TEL/FAX 055-227-5927

biz@setuko.jp <http://www.setuko.jp>

## <穴あけやさん>

と呼ぶ仕事があるのをご存じだろうか。ジュエリーが完成するまでには多くのプロセスと多岐に渡る専門職人がいることは以前にも書いたが、その一つにこの仕事がある。ユニークで斬新なデザインを効率良く実現したいBIZの作品には大切な存在である。単純に“石に穴を開ける”だけの簡単なことではない。石により機械、技術を駆使する。依頼者は石の特質（硬度・粘り・内部の石目）を考慮し、穴あけが可能かを判断し、直径、深さ又は角度等を決める。指示書を作るのも簡単な作業ではないが、全てはこの面倒で難しい仕事を職人さんが理解し仕事をしやすくし、その結果良い作品に仕上がるため。泥の水を手で掬い



つつ機械に向かって座り続ける地味な仕事。緊張と集中力を要し身体を壊す人や離職者も出て、いつ絶えていなくなるかと心配する。海外の後進国の穴あけは眼のよい少年の仕事と聞く。工賃も仕事も比較にならない。日本の職人の真面目で丁寧、精密な仕事が続けられる良い環境が整うのも難しいが、この存在がなくなるのも大きな損失に思える。

## <歳を重ねる美容>

手をかける程に肌は応える、という人がいる。シマダの日常、朝の洗顔は水道水、夜はクレンジングと石鹸。何十年來の肌トラブルで次第に簡素化された結果である。それにある医師が“これは生來の肌の弱さです。薬で治るものではありません”。この言葉に妙に納得。美容のノウハウ不足ともものぐさで簡素化は加速された。が、一抹の不安は残る。加齢による退化は認識してもそれに抵抗し、食い止める努力がない。乳液、美容液などもない状態では、いつしかシマダのカオは妖怪顔になるのだろうか。就寝前の鏡を見て“それだけはやめてよね”と顔にお願いするくらいしかない。

## <大人と子供の分岐点？>

こんなことを文字にして良いのだろうか。

砂漠への旅の途中、マラケシュ名物ハマム（ご当地エステ、とてつもなくて愉快！）なるものに行く。着替えの下着持参の指示。やがてその意味判明。

下着状態で巨漢女性に大バケツの水を浴びせかけられる。欧米女性はほとんどTバックショーツ、片や日本女性はフツートのショーツ。なんと日本女性が子供のように見えたことか！

同業日本男性がドバイで商談。席についた途端、彼は負けたと思ったと言う。



相手は全員髭面。自分を見る眼がナニそこのコドモ。髭がないのは成人未満という認識。また別の話。ベルギーで商談後の歓談。緊張が解け思わず一服。

その途端周囲の眼が変わった。対等に和やかに進んできた空気が一変。なにかさげすむ眼。そう、喫煙者は知人の人間と見なされていない。長年何としても止められなかった喫煙を彼はこれできっぱりやめられた。日本人のコケンに関わるそうだ。

---

CN-0155

パイライト 27.14ct

ピンクサファイア 0.31ct ダイヤ 0.033ct

スピネル K18 K10

虹色に輝く二つのパイライトはお互いを支えあい  
さらに後ろからも美しい支えが



---

R-0428

スミソナイト 5.55ct トルマリン 2.15ct

ペリドット 0.28ct サファイア 0.45ct

ダイヤ 0.117ct K18WG

珍しいグリーンのスミソナイトのマットな丘の  
つながりと共にユニークなリング

